報道関係者各位　　2018年10月31日

東急線沿線で、日本初の「郊外型 MaaS 実証実験」を実施

－「サステナブルな街づくり」に向けた、さまざまなモビリティサービスの提供を目指します－

東京急行電鉄株式会社
東京都市大学
株式会社未来シェア

東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄）は、郊外住宅地の維持・発展を目的に、さまざまなモビリティサービスを組み合わせた、日本初となる「郊外型 MaaS※1 実証実験」（以下、本実験）を、東京都市大学、株式会社未来シェアの協力を得て行います。

本実験は、「働き方改革」による効率的な仕事空間の確保などのワークスタイルの変化、高齢化に伴う地域内施設への移動ニーズなどのライフスタイルの変化や、カーシェアに代表されるシェアリングエコノミーの浸透など、郊外住宅地を取り巻く社会変化に対応し、多様な移動選択肢の整備を目指す取り組みです。

ハイグレード通勤バス、オンデマンドバス、パーソナルモビリティ、カーシェアの4つのモビリティを組み合わせ、いつでも安心して移動できるモビリティサービスの構築を目指すもので、「次世代郊外まちづくり」のモデル地区である、田園都市線「たまプラーザ駅北側地区」を中心に実施します。

「ハイグレード通勤バス」では、たまプラーザ駅から渋谷駅に向けて、Wi-Fi やトイレを完備した24人乗りバスを運行し、快適な通勤サービスを提供します。「オンデマンドバス」では、スマートフォンから簡単に乗車予約が可能なシステムを導入し、利用者ニーズや利用場面に応じた快適な地域内移動の実現を目指します。そのほか、より手軽な地域内移動に適した、坂道や狭い路地でも快適に走行できる「パーソナルモビリティ」や、マンションの住民同士による「カーシェアリング」の実証実験も行います。

期間は2019年1月下旬～3月下旬の約2カ月間の予定です。地域住民などから200人強の実験参加者を公募し、モビリティ毎のサービス評価や行動範囲の変化などを調査することで、MaaS 事業の展開可能性などを検討する材料とします。来年度以降の展開は、本実験終了後の状況を踏まえて決定します。東京都市大学は実験の調査・分析において学術的に協力し、株式会社未来シェアはオンデマンドバスの乗車予約システムの提供について協力します。

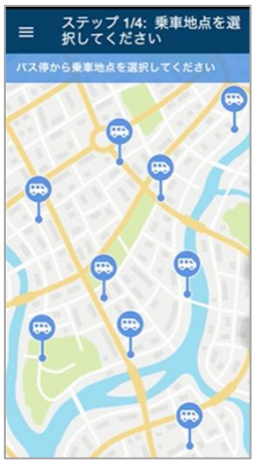
なお、本実験は、地域住民と地域交通に関する意見交換をするなどリビングラボ※2 の手法を取り入れながら、横浜市と東急電鉄が進めている「次世代郊外まちづくり」の取り組みの一環として、外出機会の創出や新たなコミュニティの形成を促進する目的としても実施します。

東急電鉄は、本実験を通じて、「サステナブルな街づくり」を推進し、いつまでも安心して暮らし続けられる東急線沿線を実現していきます。

本実験の詳細については、別紙の通りです。

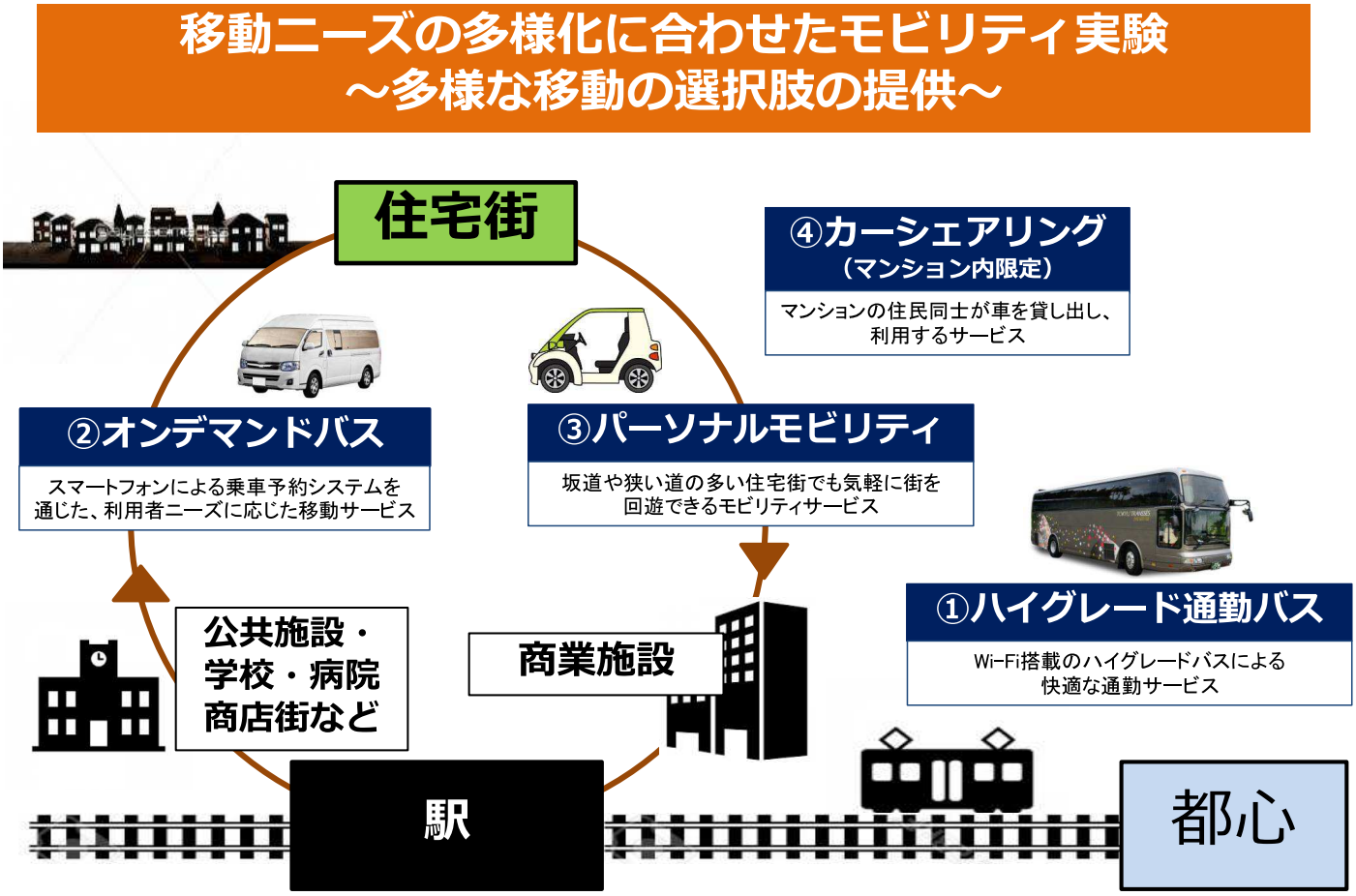
※1 Mobility as a Service：利用者の目的や嗜好に応じて、
最適な移動手段を提示するサービス

※2 リビングラボ：住民、企業、大学、行政などの、さまざまな関係者が参加し、
実際の生活や利用する環境を活用して、サービスや製品、政策を共創する活動

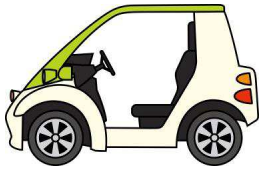
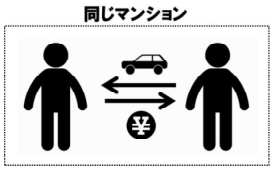


（左）ハイグレード通勤バス使用車両
（右）オンデマンドバス予約画面のイメージ

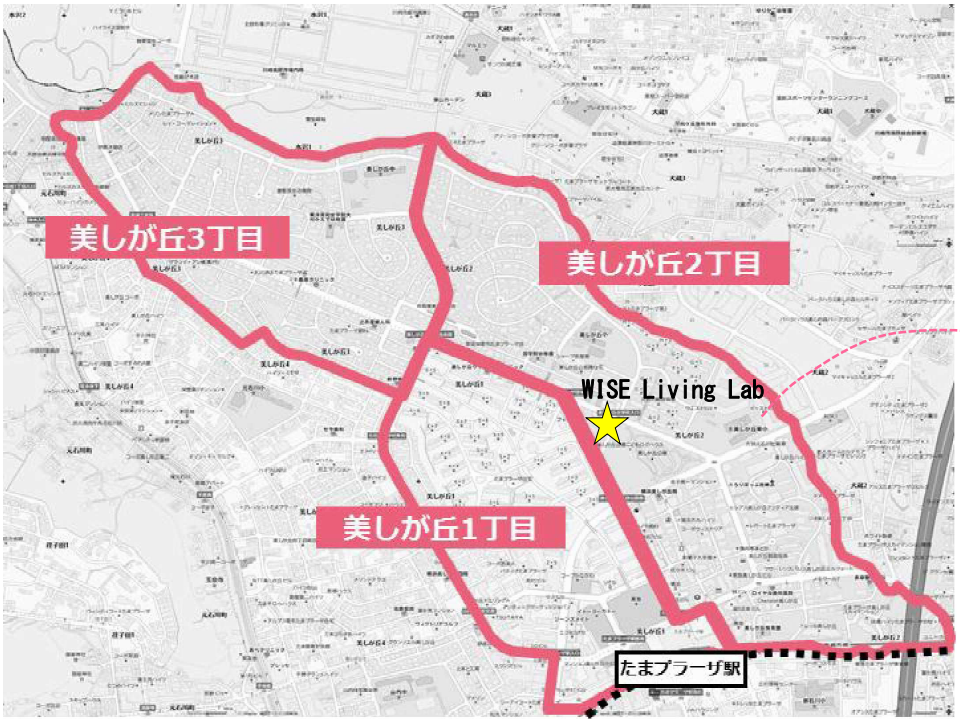
【別紙1】郊外型MaaS実証実験の概念



【別紙2】実験の詳細（予定）

	①ハイグレード通勤バス	②オンデマンドバス	③パーソナルモビリティ	④マンション内カーシェアリング
				
概要	平日朝の時間帯に、Wi-Fi搭載のハイグレードなバスを運行し、快適な通勤サービスを提供	スマートフォンによる乗車予約システムを通じた、利用者ニーズに応じた移動サービスを提供	坂道や狭い道の多い住宅街でも気軽に街を回遊できるモビリティサービスを提供	マンションの住民同士が車を貸し出し、利用するサービスを提供
利点	通勤中に快適に仕事などができる空間の確保	車の運転が難しい方などにとっての地域内の移動手段	買い物後の自宅への移動など、地域内を手軽に移動したい方にとっての移動手段	車を所有していない方などの利用ニーズへの対応
目的	有料着席バス輸送サービスに関する利用者意識などの調査	オンデマンドバスサービスに関するシステム評価、利用者意識などの調査	パーソナルモビリティ（小型電気自動車）の利用動向の調査	マンションの住民同士によるカーシェアリング事業の検証
運行区間エリア	たまプラーザ駅付近から渋谷駅付近（片道）	WISE Living Lab～美しが丘2丁目・3丁目～たまプラーザ駅前など	WISE Living Labを拠点とした周辺エリア	たまプラーザエリアのマンション（2棟）
利用方法	所定の乗り場から乗車	スマートフォンで乗車予約し、指定した場所から乗車	事前に所定講習を受講した上で、スマートフォンで予約し、予約時間中は自由に利用	スマートフォンで車両を予約し、予約時間中は自由に利用
期間	2019年1月～3月 平日のみ朝ラッシュ時間帯に1便	2019年1月～3月	2019年1月～2月	2019年2月～3月
募集対象	田園都市線たまプラーザ駅～渋谷駅間の通勤定期券をお持ちの方	運行エリア周辺にお住まいの方	WISE Living Lab周辺にお住まいの方	対象のマンションにお住まいの方
募集上限人数	24名	200名	20名	20名
利用料金	無料			

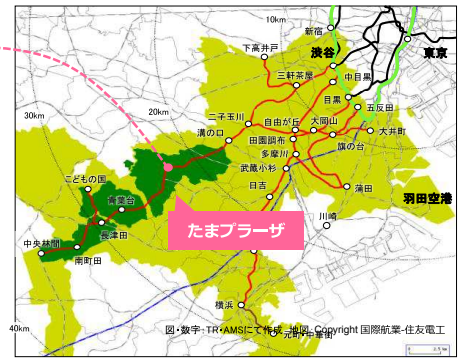
【別紙3】実証実験の対象エリア



	世帯数	人口
美しが丘一丁目	2335世帯	4745人
美しが丘二丁目	2896世帯	7265人
美しが丘三丁目	1203世帯	2883人

（出典）横浜市統計ポータルサイト（2018年9月30日現在）

※面積1.2km²、高齢化率20%



■**<u>たまプラーザ駅北側地区</u>**（横浜市青葉区美しが丘１・２・３丁目）

【理由①】起伏に富んだ郊外住宅街の象徴的エリア

【理由②】「次世代郊外まちづくり」プロジェクトの一環としての位置づけ

– 「次世代郊外まちづくり」モデル地区の選定理由

・田園都市線沿線で初期に開発された地区の一つで、開発から約60年が経過し、住民の高齢化、建物の老朽化などの課題が顕在化しつつある。

・住民がまちへの愛着を強く持ち、環境や景観への意識が高い。

【参考】

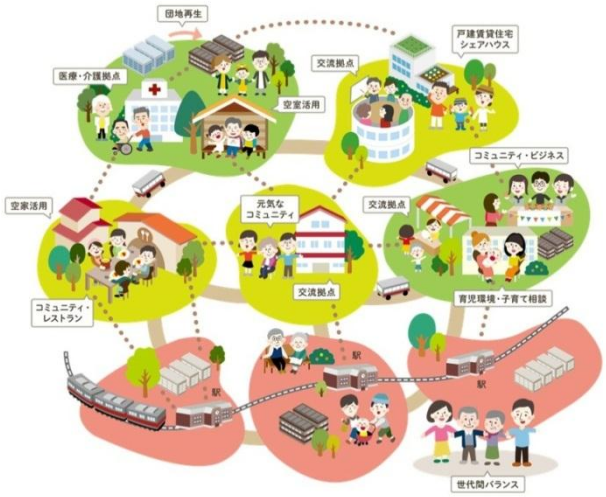
次世代郊外まちづくりについて

次世代郊外まちづくりは、「既存のまちの持続、再生」を目的に、地域住民、行政、大学、民間事業者の連携・協働によって「暮らしのインフラ」と「住まい」を再構築し、少子社会、高齢社会の様々な課題を一体的に解決していくことを目指していく、従来にない参加型・課題解決型のまちづくり手法で進めるプロジェクトです。2012 年 4 月、横浜市と東急電鉄が「次世代郊外まちづくり」の取り組みを公民共同で推進することに合意し、包括協定を締結。2017 年 4 月には協定を更新し、共同での取り組みを引き続き進めると共に、「次世代郊外まちづくり」の成果を、地域の特徴にあわせて、東急田園都市線沿線のその他の地域へ展開していきます。

■次世代郊外まちづくり URL http://jisedaikogai.jp/

既存のまちが創りかえられ、良好な住環境とコミュニティの持続と再生が実現した郊外住宅地の将来像を、「ＷＩＳＥ　ＣＩＴＹ（ワイズシティ）」と名付け、「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの将来像として掲げています。「ＷＩＳＥ　ＣＩＴＹ」とは、Ｗｅｌｌｎｅｓｓ・Ｗａｌｋａｂｌｅ&Ｗｏｒｋｉｎｇ、Ｉｎｔｅｌｌｉｇｅｎｃｅ＆ＩＣＴ、Ｓｍａｒｔ・Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ ＆Ｓａｆｅｔｙ、Ｅｃｏｌｏｇｙ・Ｅｎｅｒｇｙ＆Ｅｃｏｎｏｍｙの頭文字をとった造語です。ＷＩＳＥという言葉には 「賢い、懸命な」という意味もあり、ＷＩＳＥ「賢いまちづくり」を目指す、という思いも込められています。

また、「Ｗｉｓｅ Ｃｉｔｙ」を具現化するため、「コミュニティ・リビング」の実現に向けた取り組みを進めています。「コミュニティ・リビング」とは、歩いて暮らせる適度な生活圏ごとに買い物、福祉、医療、子育て、コミュニティ活動など、地域に必要な機能を空家や空き地、土地利用転換の機会などを活用して適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方です。



以　上